

1. 本年度の重点教育目標

「すすんで 学び合い 自信を高める子」の育成

2. 本年度の取組の重点

<p>(1) 経営上の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の経営参画と協働体制の確立 ・つながりと存在感を実感できる学級経営，登校意欲，自信（自己肯定感）の向上の実現 ・社会に開かれた教育課程を軸とした教育活動の展開 	<p>(2) 指導上の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての子供の【まなび】づくりの推進 ・「あたたかさ」を実感させる【こころ】づくりの推進 ・「安心・安全」を最優先した【からだ】づくりの推進 ・コミュニティスクールや小中連携教育の推進
--	--

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価
① 自ら学ぶ力を育む教育の推進	教職員が丸となり「旭岡スタンダード」を土台とした教育活動を積み上げ，図書館の充実等，より良い学習環境の実現に努めることができたか。	a	全校一斉朝読書タイムを設定し読書への意識を高めて語彙力の向上を目指し，ウィークポイントを中心にした学習課題に取り組みさせる。	A	A
	端末の積極的な活用と，「学び合い」の活動を取り入れ，思考を広げたり深めたりする授業を展開することができたか。	a	一人一台端末を必要な場面で用いて授業の焦点化・視覚化・共有化を行い，より深い学びにつなげる。	A	A
	家庭と連携した望ましい生活・学習習慣を確立するとともに，基礎・基本の確実な定着を図るように努めることができたか。	b	学習した内容に正対した適用問題を解かせるなど，宿題や家庭学習で関連した問題に取り組みさせる。	A	B
	<p>《学校関係者によるご意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール構想導入を確実に取り入れながら効果的な活用を意図した教育活動の取組が感じられた。 ・児童の学び合いの過程を大事にしながら、さらに主体的な学びの力の深化が期待できそうである。 ・家庭学習の充実は中学校と共通の課題。子供たちが自発的に取り組む姿勢（意欲）を高められるよう、小中で連携していきたい。 ・家庭学習は、学童でやって家庭にも習慣をつなげるような声かけをしている。 				
② 豊かな心を育む教育の推進	教師の働きかけによる「規範意識の育成」，児童の内面に対する「共感的な理解」を両輪とした「ガイダンスとカウンセリング」双方の機能を重視した教育に努めることができたか。	a	児童一人一人に対するきめ細やかな相談体制や様子を見取る機会の充実とともに，問題行動の早期発見・早期対応の取組の充実を図る。	A	A
	支持的な風土を醸成する学年・学級経営の充実及び子供の良さや可能性を伸ばす生活指導の推進で，児童の自己肯定感を高めることができたか。	a	すべての児童に活躍できる場を与えて 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦するなど，色々なことにチャレンジできるようにする。	A	A
	長期欠席や不登校及び学校いじめ防止基本方針に基づいた取組の徹底を図ることができたか。	b	いじめは絶対に許さず，誰に対しても優しく接することができるような指導で不登校の未然防止に努める。	A	B
	<p>《学校関係者によるご意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接的な交流や授業参観の機会が無い中でも、児童の心が豊かにたくましく育っていることが見て取れた。 ・制限ある学校生活の中でも、のびやかさと自立心を大事にしていると思う。 ・縦割り活動のさらなる充実をはじめ、心理的安全性（支持的風土）の高い学級経営や複数の目による予防的・開発的な取組（生徒指導・支援）の推進を期待する。 ・学童でもやってみようという気持ちを育てたい。 				

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価
③ 健全な体やかな体を育む教育の推進	健全な体と心を営むために、家庭や地域と連携しながら「よりよい生活習慣づくり」を推進することができたか。	a	コロナ禍の好ましくない生活習慣を改善するためにも生活リズムチェックシートの活用を継続する。	B	A
	安心・安全な環境を整え、食育等も通じて健康な体づくりを目指す教育活動の充実に努めることができたか。	b	年間を通じてマラソンや縄跳び等を無理なく続けていくことで、健康でたくましい体づくりを目指す。	A	A
<p>《学校関係者によるご意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組を継続していくことで、児童にも、自分たちのプラスの変容をフィードバックさせることができるとさらによいのでは…と思う。 体づくりと心づくりは大事にしたい視点。 朝食欠食や夜遅くまで起きている現状があり、長期休業中の影響が大きい。 					
④ 家庭・地域と共働した教育活動	地域への関心を高め、風土に愛着や誇りをもてるような学習活動の工夫に努めることができたか。	a	総合的な学習の時間で、課題をたて情報を集めて整理し、地域から応援してもらえる仕組みづくりをする。	A	A
	家庭や地域及び小中の連携教育を進め、関係機関との連携を密にし、地域全体で児童の「生きる力」の育成のために努力することができたか。	b	保護者が「安心して子供を学校に任せられる」よう、学校を取り巻く外部機関にも協力を仰いで、児童の健全な育成を図る。	A	A
<p>《学校関係者によるご意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの実践を礎とし、さらに地域の学校として位置付けていくことを願っている。 地域全体で「生きる力」を育てられている実感がある。 					
⑤ 学校における指導体制等の充実	授業のユニバーサルデザイン化等、今日的な教育課題に積極的に対応する教育の推進に努めることができたか。	a	「誰一人取り残さない教育」を目指して、授業づくりや教室・人的環境のユニバーサルデザイン化を図る。	A	A
	教職員の組織的体制を生かし、「子どもを変容させたいと強く願い協働し合う学校」となっていたか。	a	個別の支援が必要な児童や家庭にはケース会議や対策委員会等の組織ぐるみの対応を継続していく。	A	A
<p>《学校関係者によるご意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部関係機関との適時性ある連携は、時に有効性の高いものかと思われます。 校内組織体制の充実と合わせて上手に活用していくことで、児童の学びと育ちを支えると共に、保護者・家庭の支えの一助にもなると思われる。 難しいケースも多々あるかと思われるが、地道な取組が効を奏する。 コロナ禍で大変な中、子供たちに寄り添い、個々のケースの対応に力を注いできたのが感じられる。 					

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。